

令和 8 年 8 月 食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和 8 年 10 月 8 日 発行

1 実施概要

■実施日時	令和 8 年 8 月 20 日（木）、21 日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩 1 時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ 13 名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ 6 名（食品ロス調査）
■調査資料	・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ 100 袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である 100 袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の 6 地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【8 月 20 日】 中央（檜山 11 袋）、東部（東通 10 袋）、西部（新屋元町又は日吉町 5 袋）、南部（御所野 8 袋）、北部（下新城 中野 6 袋、金足 6 袋）、河辺・雄和（河辺 4 袋） 【8 月 21 日】 中央（川尻 6 袋、大町 6 袋）、東部（添川 4 袋、旭川 4 袋）、西部（新屋勝平町 6 袋）、南部（上北手 8 袋）、北部（飯島 12 袋）、河辺・雄和（雄和 4 袋） ・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100 世帯分程度のごみ袋又は生ごみで 100kg～150kg 程度」としていることを踏まえ、上記 100 袋に含まれていた生ごみ約 150kg とした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる 100 袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100% 残存・50% 以上残存・50% 未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の100袋の合計重量は、360.5kg、1 袋あたりの平均重量は約3.6kgであった。

図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

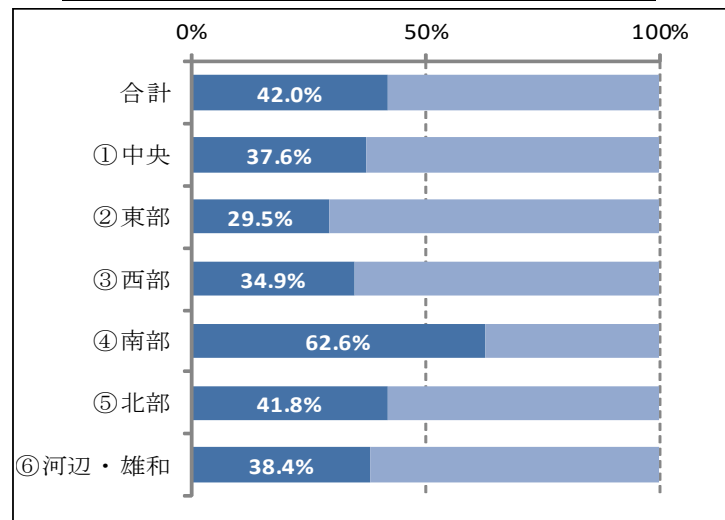
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	360.5	3,565	3.6	35.7
①中央	23	79.5	775	3.5	33.7
②東部	18	50.9	645	2.8	35.8
③西部	11	40.2	435	3.7	39.5
④南部	16	68.7	535	4.3	33.4
⑤北部	24	87.5	840	3.6	35.0
⑥河辺・雄和	8	33.7	335	4.2	41.9

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計割合では、42.0%となっている。

地域別に見ると、④南部が最も高く62.6%、次いで⑤北部の41.8%、河辺・雄和の38.4%、①中央の37.6%、③西部の34.9%、②東部の29.5%となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A (kg)	うち、食品廃棄物 B (kg)	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	360.52	151.50	42.0%	58.0%
①中央	79.54	29.89	37.6%	62.4%
②東部	50.89	15.00	29.5%	70.5%
③西部	40.23	14.06	34.9%	65.1%
④南部	68.69	43.00	62.6%	37.4%
⑤北部	87.49	36.61	41.8%	58.2%
⑥河辺・雄和	33.68	12.94	38.4%	61.6%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

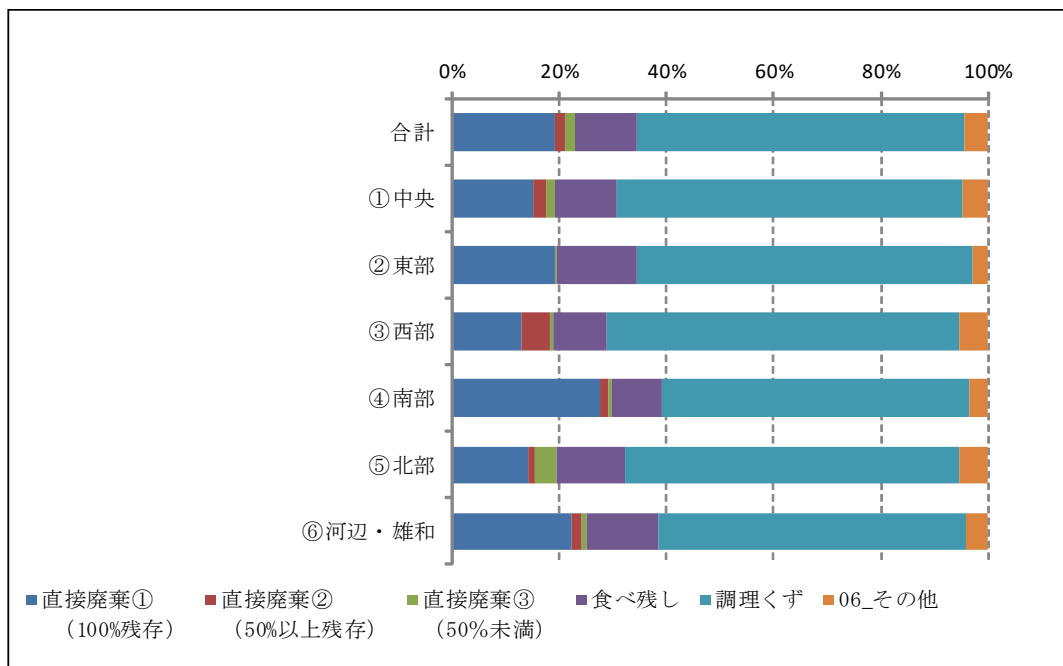
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 3）、6 地区の合計割合では 34.3%となっている。

地区別に見ると④南部が最も高く 39.1%、次いで⑥河辺・雄和の 38.4%、②東部の 34.5%、⑤北部の 32.3%、①中央の 30.6%、③西部の 29.0%となっている。

直接廃棄に着目すると、6 地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち 19.3%を占めており、④南部で 27.6%と高く、次いで⑥河辺・雄和が 22.4%、②東部が 19.3%、①中央が 15.2%、⑤北部が 14.2%、③西部が 12.8%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6 地区の合計割合では 11.5%となっている。②東部が 14.9%と高く、次いで⑥河辺・雄和が 13.2%であり、④南部が最も低く 9.3%となっている。

図表 3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	34.3%	19.3%	2.0%	1.6%	11.5%
①中央	30.6%	15.2%	2.4%	1.8%	11.3%
②東部	34.5%	19.3%	0.0%	0.3%	14.9%
③西部	29.0%	12.8%	5.4%	0.6%	10.2%
④南部	39.1%	27.6%	1.7%	0.5%	9.3%
⑤北部	32.3%	14.2%	1.4%	3.9%	12.7%
⑥河辺・雄和	38.4%	22.4%	1.9%	0.9%	13.2%

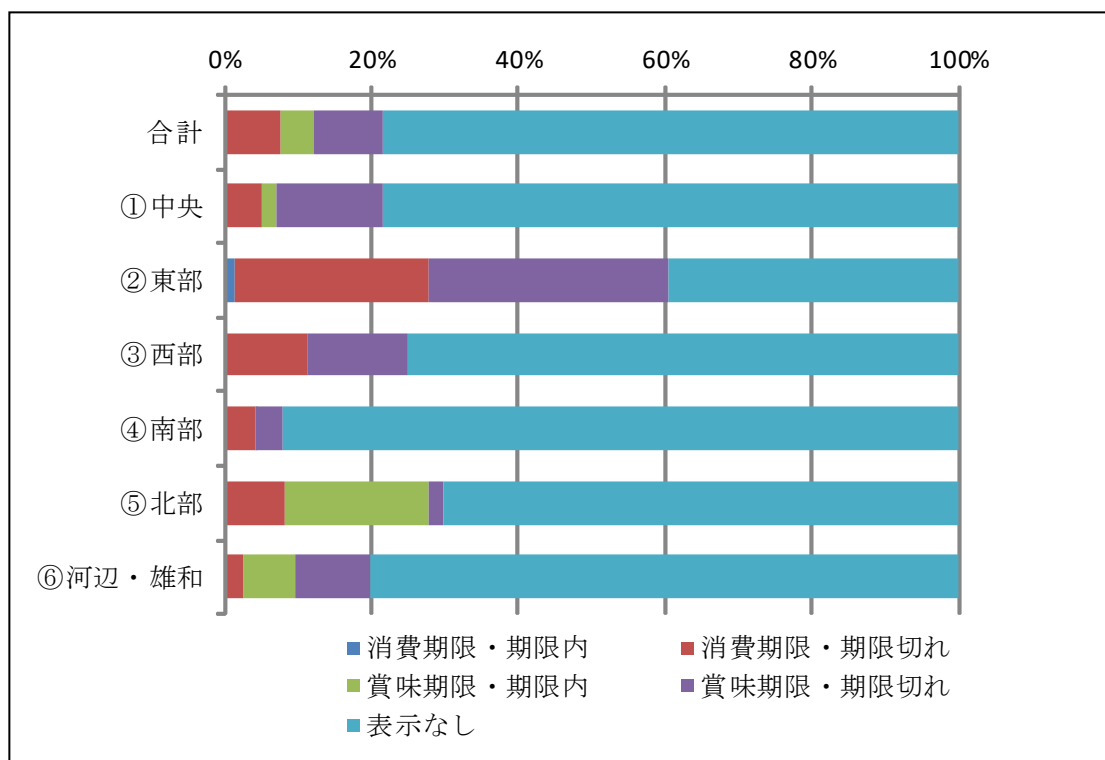
※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く78.7%であり、消費期限の表示があったものは7.5%（期限内はなしで、期限切れが7.5%）、賞味期限の表示があったものは13.8%（期限内が4.5%、期限切れが9.3%）となっている。

消費期限に着目すると、（100%手付かず）のうち「期限内」のものはなしで、「期限切れ」については、②東部地区で最も高く26.6%であった。賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち4.5%、地区別に見ると⑤北部地区が最も高く19.6%であった。

図表 4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



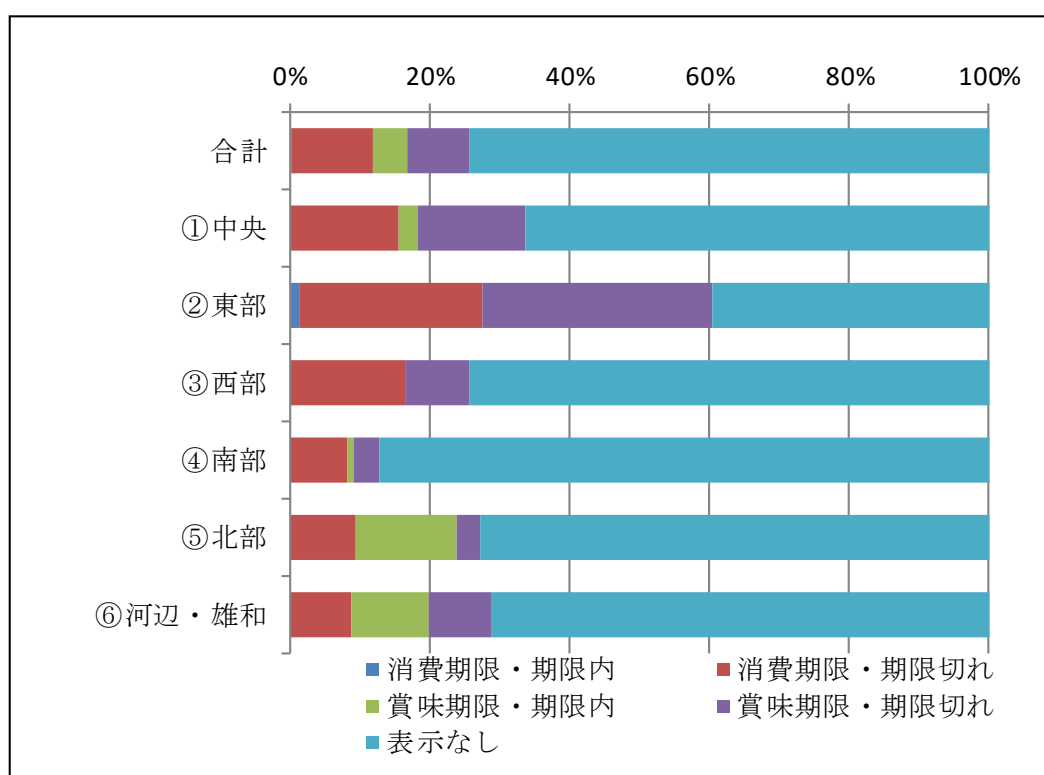
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	7.5%	4.5%	9.3%	78.7%
①中央	0.0%	5.1%	2.0%	14.3%	78.6%
②東部	0.0%	26.6%	0.0%	33.2%	40.2%
③西部	0.0%	11.4%	0.0%	13.6%	75.1%
④南部	0.0%	4.1%	0.0%	3.9%	92.0%
⑤北部	0.0%	8.3%	19.6%	2.0%	70.1%
⑥河辺・雄和	0.0%	2.4%	7.3%	10.2%	80.1%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表 5）、6 地区の合計では「消費期限（期限切れ）」が最も多く 11.9%であり、消費期限の表示があったものは 12.0%（期限内は 0.1%、期限切れ 11.9%）、賞味期限の表示があったものは 13.8%（期限内 4.8%、期限切れ 9.0%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち 4.8%となっている。地区別に見ると⑤北部地区が最も高く 14.2%となっている。

図表 5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.1%	11.9%	4.8%	9.0%	74.1%
①中央	0.0%	15.5%	2.8%	15.5%	66.1%
②東部	1.5%	26.2%	0.0%	32.7%	39.6%
③西部	0.0%	16.4%	0.0%	9.3%	74.3%
④南部	0.0%	8.2%	0.9%	3.6%	87.2%
⑤北部	0.0%	9.6%	14.2%	3.6%	72.7%
⑥河辺・雄和	0.0%	8.7%	11.2%	9.0%	71.1%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が 100%にならない場合がある。

(4) 一人 1 日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和 7 年度の実績を参考に一人 1 日当たりの食品ロス発生量を推計すると 67.1g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が 44.6g/人/日、食べ残しが 22.5g/人・日と推計された。

図表 6 一人 1 日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

